

**精神障害者が地域で
いきいき暮らせるために
～誰もが自らの人生の主人公～**

日本福祉大学 福祉経営学部(通信教育)
医療・福祉マネジメント学科 青木 聖久
aoki@n-fukushi.ac.jp

話のアウトライン

I 開く

II 生きづらさ

III 暮らしに必要な要素と出会い

IV 霧晴れる時 (追体験:まとめにかえて)



開く

【学生として】

- 津名高校[淡路島]卒業(1984)
- 日本福祉大学入学(1984)35年前

自己紹介 フォーマル編

【社会福祉実践として】

- 慈圭病院:PSW(岡山:1988~1991), 関西青少年サナトリウム:PSW(神戸:1991~2002)内、兵家連において、1995年~4年間、電話相談を兼任), サポートセンター西明石:小規模作業所所長(兵庫:2002~2006), 日本福祉大学(愛知:2006~現在)
* 社会活動 全国精神保健福祉会連合会(家族会)理事(2010~現在), 日本精神保健福祉学会理事(2013~現在),

【学生として】

- 日本福祉大学卒業(1988), 京都府立大学大学院修士課程修了(2004), 龍谷大学大学院博士後期課程修了(2012)



生きづらさ

わかりづらさ



見たい目



経験則

生きづらさの派生

- ◇所得の減少
- ◇特別な出費の増大
- ◇活動の場の減少
- ◇褒められる機会の減少

の人としての共通性

人としての気持ちは共通。加えて、人が元々持っているプライドも、ちっとも変わらない



暮らしに必要な
要素と出会い



法的諸制度

物理的
要素

地面



市民の意識

内面的
要素

物理的要素

1. 経済的支援

- 所得保障
- 特別な出費の軽減

● **障害年金** (個人 ⇒ 障がい)

● **生活保護** (世帯 ⇒ 貧困)

● **医療費助成**
(自己負担分に対しての軽減)

● **公共交通運賃の割引
等** (外出促進)

所得保障

- 起動装置として
- 精神及び生活の安定
- 生活の基礎的部分の保障
- 開き直る

2. 社会参加活動

- 機会の創出

● 障害者差別解消法

不当な差別・合理的配慮

● 障害者雇用促進法

法定雇用率の設定(2.2%)

	就職件数	前年度(前年度比)
身体障がい者	26,841件	85件増(0.3%増)
知的障がい者	22,234件	1,247件増(5.9%増)
精神障がい者	48,040件	2,976件増(6.6%増)
その他の障がい者	5,203件	196件増(3.9%増)
合計	102,318件	4,504件増(4.6%増)

厚生労働省(2019)『平成30年度・障害者の職業紹介状況等』
「ハローワークを通じた障害者の就職件数」
を基に筆者作成

精神障がい者の継続的な一般就労

- 2018年6月1日時点における雇用障がい者総数は**534,769.5人**であり、その内訳は、身体障がい者**346,208人**（前年比**3.8%増**）、知的障がい者が**121,166.5人**（前年比**7.9%増**）、**精神障がい者が67,395人**（前年比**34.7%増**）である。
- 3障がい全体に占める精神障がい者の割合は、**約13%**。

厚生労働省(2019)『平成30年 障害者雇用状況の集計結果』

「褒められる」の場

- 家族
- 近隣
- 級友
- 任意のグループや団体
- はたらく場

「褒められる」の仲間たち

- 朝のあいさつ
- 別れ際のねぎらい
- お土産のおすそわけ
- 自分の話にうなずいてくれる
- 意見を求められる
- 相談される

社会参加活動の意義

- 所属する場がある
- 生活にメリハリができる
- 家族でも近隣でもない、独自の集団に居られる
- 強みを活かし、認められることで自信構築につながる

3. 地域生活支援体制

- フォーマル

- インフォーマル

- 医療機関、相談支援事業所
- 保健所、精神保健福祉センター
- 保健師、精神保健福祉士 等
- 仲間
- 家族
- ボランティア
- ほっとできる居場所 等

ピアサポート

- モデルを介した、明日への希望
- 人は語り合うことで肩の荷物をおろせる
- 経験をプラスにとらえる機会となる

家族会

- 家族会員は、日々の生活問題を現実的に考え合える
- 当初、家庭内のことのみと
思っていたはずなのに、社会
に向いている自分がある
- 家族会は、情報提供と共に、
優しく背中を押してくれる

內面的要素

1. 固有の存在

- 生きづらさを持ちつつも、
- 当たり前前に幸せを願っている人

2. 役割と肯定感

- 自己有用感

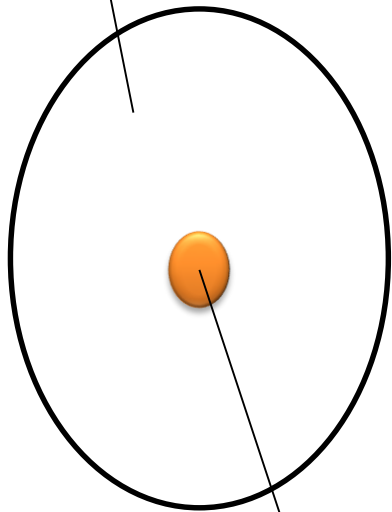
社会に対して自分が
何らかの役割を担って
いると感じられると共
に、

社会から自分が肯定
的に捉えられていると
実感できている状態

問題の位置と割合

①

生活全体



②



③

不安やストレスの原因となる問題

IV

霧晴れる時
(追体験:まとめにかえて)

■ 思い、

■ 想い、

1. 精神障がいのある 人と取り巻く人たち

- こんなこと、誰もわか
れへんやろうね
- あの人たちのことで
困ってますねん

2. 精神障がいのある人の 家族

1. 父と息子

列車運行会社や
「親父の会」での温か
みのある軌跡

岩瀬孝和さん(仮名、70歳代)

- 解雇通告された仲間を助けるために
- 子どもとのかかわりと妻へのねぎらい
- 「親父の会」を結成。家族会でも引き継がれる「親父の気楽な一杯会」
- 未だに忘れられない言葉
- 「家族会に参加して一番変わったのはお父さんだ」





青木聖久

2019.7

『追体験
霧晴れる時』
今および未来を生きる精神障がいのある人の家族15の
モノガタリ

ペンコム発行

ご清聴ありがとうございました

